

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎	○	○
	2	◎	◎	○
	3	○	◎	○
	4	○	◎	○
	5	○	○	◎
	6			

人文科学研究科史学専攻博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	先行研究の調査が広範・的確で、関連する領域についての研究を広く渉猟し、論議の展開経緯と論議の焦点に関する認識が合理的で的確である。	先行研究の調査が広範で、論議の展開経緯に関する認識が的確である。	先行研究の調査が広範で、論議の展開経緯を認識できている。	基本的な先行研究を調査し、現在の論議の焦点を認識できている。	先行研究の調査が不十分で、論議の展開経緯や焦点を認識できていない。
課題を追求する方法論の適切性	関係する既知の史資料を広範に調査すると共に、未開拓ないし未活用の史資料を検出・調査し、その意義を適切に捉えて活用できている。	関係する既知の史資料を広範に調査し、その意義を適切に捉えて活用できている。	関係する既知の史資料を調査し、その意義を適切に捉えて活用できている。	関係する基本的な史資料を調査し、活用できている。	関係する基本的な史資料の調査が不十分であり、利用が適切ではない。
研究方法及び調査方法の妥当性	問題にする史資料の含む解釈可能性を多角的に捉えて、適切な積読と周到な史資料操作によって、適切・確実・独創的な理解を提示している。	問題にする史資料の含む解釈可能性を多角的に捉えて、適切な積読と周到な史資料操作によって、適切・確実な理解を提示している。	問題にする史資料について、適切な積読と史資料操作によって、適切な理解を提示している。	適切な積読と史資料操作によって、適切な理解を提示している。	積読ないし史資料操作に瑕疵があり、史資料の理解が適正ではない。
結論の妥当性	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が適切かつ整合的に導かれ、極めて一貫したものとなっている。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が整合的に導かれ、一貫したものとなっている。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が整合的に導かれている。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が導かれているが、その一貫性において課題がある。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が整合的に導かれていない。
研究の独創性と研究分野への貢献	合理的・説得的な成果を得て、複数の論点と新たな解釈を提示し、体系的かつ独創性のある歴史像の提示に成功している。	合理的・説得的な成果を得て、新たな論点と解釈を提示し、体系的な歴史像の提示に成功している。	合理的・説得的な成果を得て、再検討の余地のある論点を見出し、新たな解釈を提示しようとしている。	先行研究の描いてきた歴史像を理解し、新たな論点の提示を試みている。	先行研究の描いてきた歴史像の理解が不十分であり、新たな論点の提示に成功していない。
その他					